

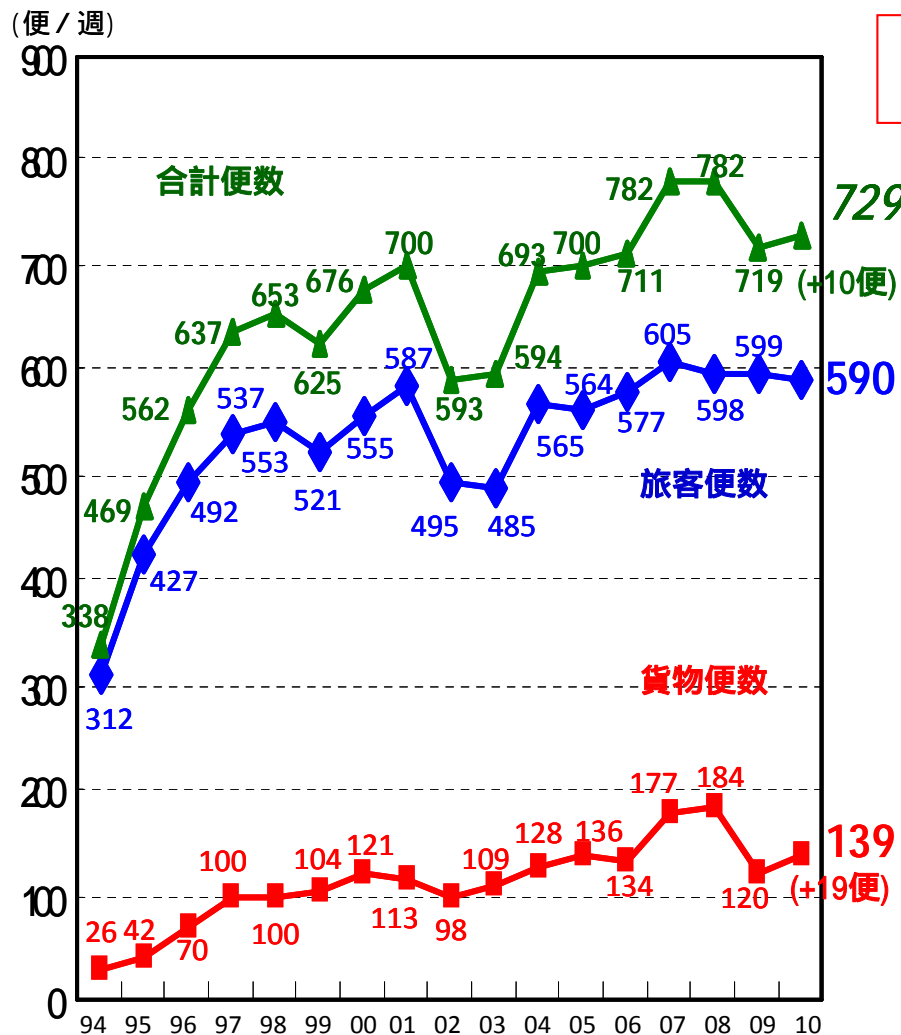
《海港と空港の連携》

平成22年度
関西国際空港における
航空物流機能強化の取組

戦略的な国際航空ネットワークの形成・1

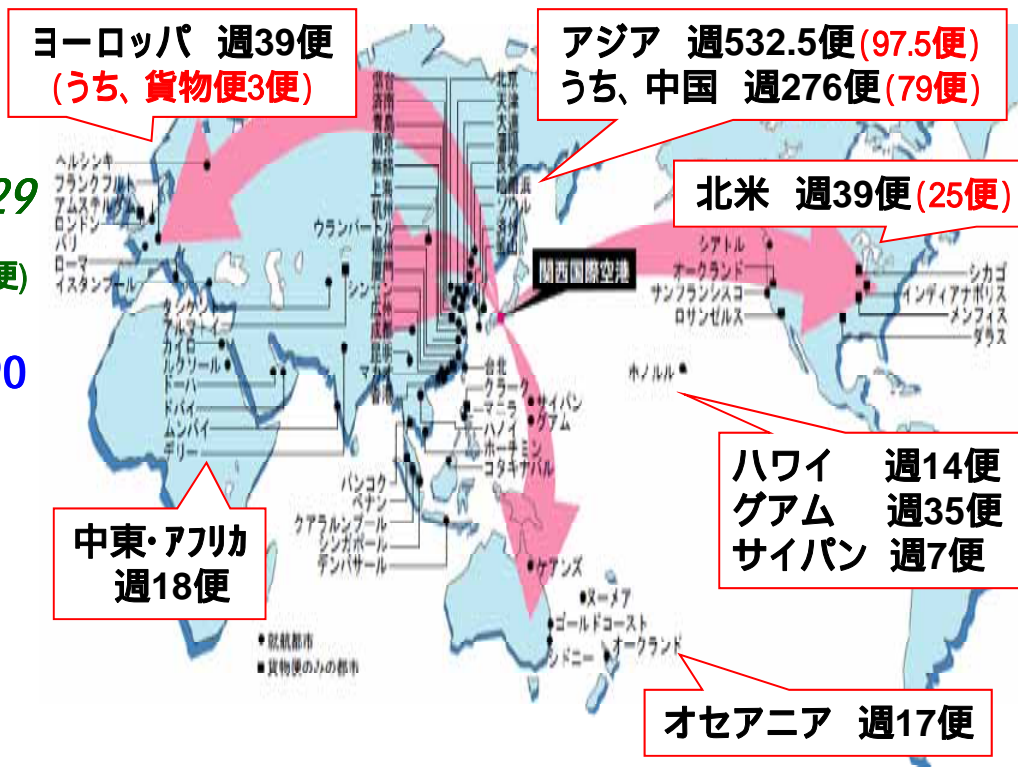
関空の国際線便数・ネットワーク（2010年夏期スケジュール）

国際線夏期スケジュール就航便数の推移



(関西国際空港(株)調べ)

国際線就航状況 < 2010年夏期スケジュール >



航空会社数	57社
就航国(地域)数	27ヶ国・地域
就航都市数	68都市
就航便数	729便/週





就航国(地域)
 アメリカ、(グアム・サイパン)、イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、フィンランド、トルコ、ウズベキスタン、カザフスタン、UAE、カタール、エジプト、韓国、中国、(台湾)、モンゴル、フィリピン、ベトナム、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、インド、オーストラリア、ニュージーランド

※ 夏期スケジュール期間中のピーク月(8月)の計画です。

戦略的な国際航空ネットワークの形成・2

2010年夏期スケジュール以降の国際貨物便の新規就航・増便

2010年7月31日現在

	方面	路線	航空会社	内容	開始時期	
貨物便	-	-	フェデラルエクスプレス 	+ 週3便 (36→39便)	'10/ 6月	
	欧米	フランクフルト	ルフトハンザカーゴ 	+ 週1便 (2→3便)	'10/ 3月	
		ロサンゼルス	チャイナエアライン 	+ 週1便 (1.5→2.5便)	'10/ 3月	
		ロサンゼルス	エバー航空 	+ 週1便 (新規)	'10/ 5月	
		ロサンゼルス	エバー航空 	+ 週0.5便 (1→1.5便)	'10/ 6月	
		ロサンゼルス	エバー航空 	+ 週0.5便 (1.5→2便)	'10/ 7月	
		ミラノ	カーゴルクスイタリア 	+ 週1便 (新規)	'10/ 7月	
		フランクフルト	ルフトハンザカーゴ 	+ 週1便 (3→4便)	'10/ 9月	
	アジア	台北	チャイナエアライン 	+ 週1便 (2.5→3.5便)	'10/ 3月	
		台北	エバー航空 	+ 週1便 (新規)	'10/ 5月	
		マカオ	マカオ航空 	+ 週2便 (新規)	'10/ 5月	
		台北	エバー航空 	+ 週0.5便 (1→1.5便)	'10/ 6月	
		台北	エバー航空 	+ 週0.5便 (1.5→2便)	'10/ 7月	
	中国	厦門	揚子江快運航空 	+ 週5便 (新規)	'10/ 4月	
		香港	全日本空輸 	+ 週2.5便 (新規)	'10/ 3月	
		天津/大連	全日本空輸 	+ 週0.5便 (4.5→5.0便)	'10/ 3月	
		青島	全日本空輸 	+ 週0.5便 (2.0→2.5便)	'10/ 3月	
		香港	キャセイパシフィック航空 	+ 週1便 (3→4便)	'10/ 7月	
					計 + 週23.5便	

戦略的な国際航空ネットワークの形成・3

関西の貨物便就航路線ニーズ調査実施中（平成22年度）

各 位

国際物流戦略チーム/関西国際物流効率化推進協議会
 社団法人関西経済連合会・大阪府・
 国土交通省近畿運輸局・関西国際空港株式会社

関西国際空港の航空物流ネットワークの拡大について

～企業ニーズに直結した航空ネットワークの実現～
 （2010年度の貨物便就航路線ニーズ・ご要望調査へご協力をお願いします）

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、当協議会では昨年度に「関西国際空港の貨物便就航路線ニーズ調査」を実施し、関西に生産拠点等を置く企業様約160社からのご回答を賜り、その調査結果を元に、航空会社への路線誘致活動を行ってまいりました。この結果、昨夏以降、関西では週35便を超える貨物便ネットワーク拡大が図られ、皆様の一つ一つのお声が非常に大きな役割を果たしたものと、改めて感謝を申し上げます。（別紙：「2009年“荷主ニーズ調査”以降の新規就航・増便」ご参照）

関西の貨物便ネットワークは回復基調にあります。一方で、最近の急速な需要回復を背景に、依然として、貨物便の全体的な供給スペース不足の声や、今後の安定的な航空輸送に対してのご不安、さらに、方面によっては便数不足等により、成田等の他空港を利用せざるを得ない等のご不便をお掛けしているケースが残っております。

当協議会としましては、引き続きこのような皆様のお声を確実に、関西の貨物便ネットワーク形成に反映し、地域の企業様の望まれる路線が24時間を通じて緊密に結ばれるよう、本年度も最新のニーズ調査をさせていただき運びとなりました。

今年度も皆様よりのご回答を「関西企業の真のニーズ」として取りまとめ、ニーズに直結したネットワークを実現に向けて、航空会社各社に新規就航・増便を強く要請して参りたく考えておりますので、ご多忙の折まことに恐縮ではございますが、別紙調査票にご回答いただきますよう、宜しく願い申し上げます。

（本調査のご回答及びお問合せ先）
 関西国際空港(株)航空営業部貨物営業グループ
 担当：杉江・星 TEL：072-455-2038 FAX:072-455-2057
ご回答期限は2010年9月7日（火）までとさせていただきます。

2010年度関西国際空港の航空物流ネットワークの拡大について （貨物便就航路線ニーズ・ご要望調査回答票）

貴社名	
ご住所	〒
ご記入者	部署：
お役職・ご氏名：	
TEL: () FAX: () E-mail:	

【設問1】 関西空港の貨物便就航路線として貴社の物流に必要な路線に関する要望をご記入下さい。
曜日・時間帯は選択(チェックマーク)、年間物量はおおよその年間見込物量(又は昨年実績)をお教えください。

都市	方向	曜日(複数可)				時間帯(複数可)		年間物量(ト)
		月	火	水	木	06:00-11:59	12:00-17:59	
	出	月	火	水	木	06:00-11:59	12:00-17:59	
	入	金	土	日	毎日	18:00-22:59	23:00-05:59	
	出	月	火	水	木	06:00-11:59	12:00-17:59	
	入	金	土	日	毎日	18:00-22:59	23:00-05:59	
	出	月	火	水	木	06:00-11:59	12:00-17:59	
	入	金	土	日	毎日	18:00-22:59	23:00-05:59	
	出	月	火	水	木	06:00-11:59	12:00-17:59	
	入	金	土	日	毎日	18:00-22:59	23:00-05:59	
	出	月	火	水	木	06:00-11:59	12:00-17:59	
	入	金	土	日	毎日	18:00-22:59	23:00-05:59	

【設問2】 貴社の航空物流動向について、今年後半以降の見通しについてお聞かせください。

大きく減少	減少	前年並	増加	大きく増加	利用なし
-------	----	-----	----	-------	------

【設問3】 本調査にご協力いただいた企業様として、貴社名を公表させていただくことは可能でしょうか？
ご協力企業リストとして調査結果に企業名のみ添付するもので、貴社のご回答内容が個別に識別できるような公表はいたしません。

会社名を公表しても良い
 会社名は公表できない

【設問4】 関西空港の航空物流利用に対するご要望やご意見がございましたら、自由にご記入下さい。

ご返送先： 関西国際空港(株)航空営業部貨物営業グループ 担当：杉江・星
FAX: 072-455-2057 E-mail: cargo01@kiac.co.jp TEL:072-455-2038

ご回答期限 2010年9月7日(火)まで

ご協力誠にありがとうございました。

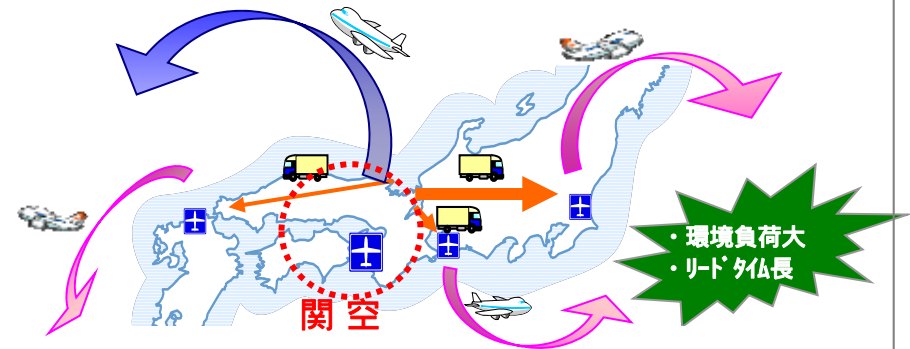
調査結果については、集計次第ご報告させていただきます。

関空後背地発着の国際航空貨物動向調査

背景・目的

関空における欧米向けを中心とするネットワーク不足等を背景に、関西を中心とする関空後背地を発着する国際航空貨物の相当量が成田空港をはじめとした国内他空港を経由している現状があることから、それら動態を明らかにし、関空へのエアライン誘致による就航ネットワーク拡充をはじめとした機能強化、利便性向上への取組の一助とする。

関西発(着)の貨物の一定量がトラックにより国内他空港へ(から)横持ちされている。



調査概要

調査実施機関: 近畿運輸局

調査内容: 航空フォワーダーを対象とし、以下の調査を実施。

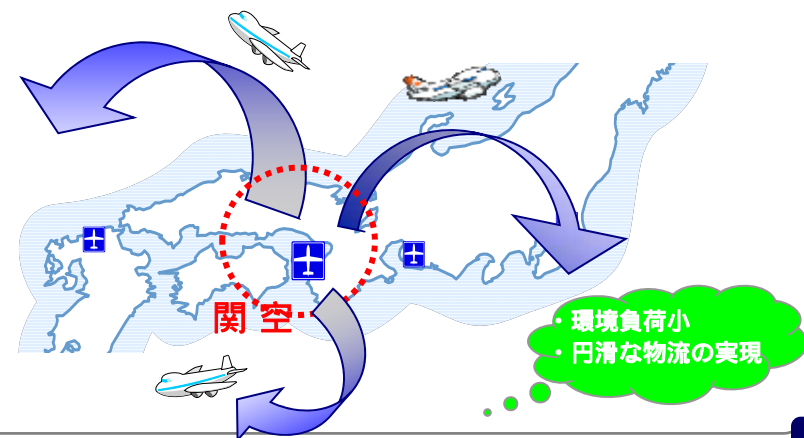
海外仕向(仕出)空港別に、

- ・取扱総量
- ・国内積載(取卸)空港別取扱量 等

⇒ 路線別に需要(貨物量)と供給(就航状況)のバランス実態を明らかにし、新たなエアライン誘致への端緒とする。

目指すべき姿

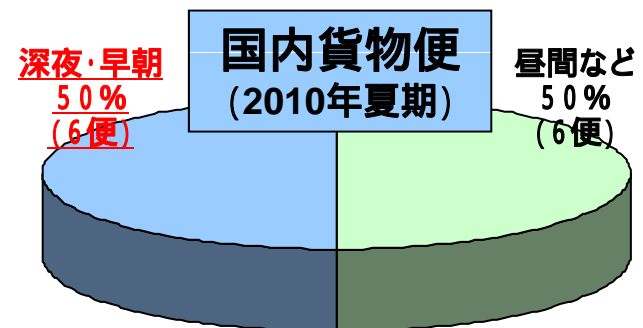
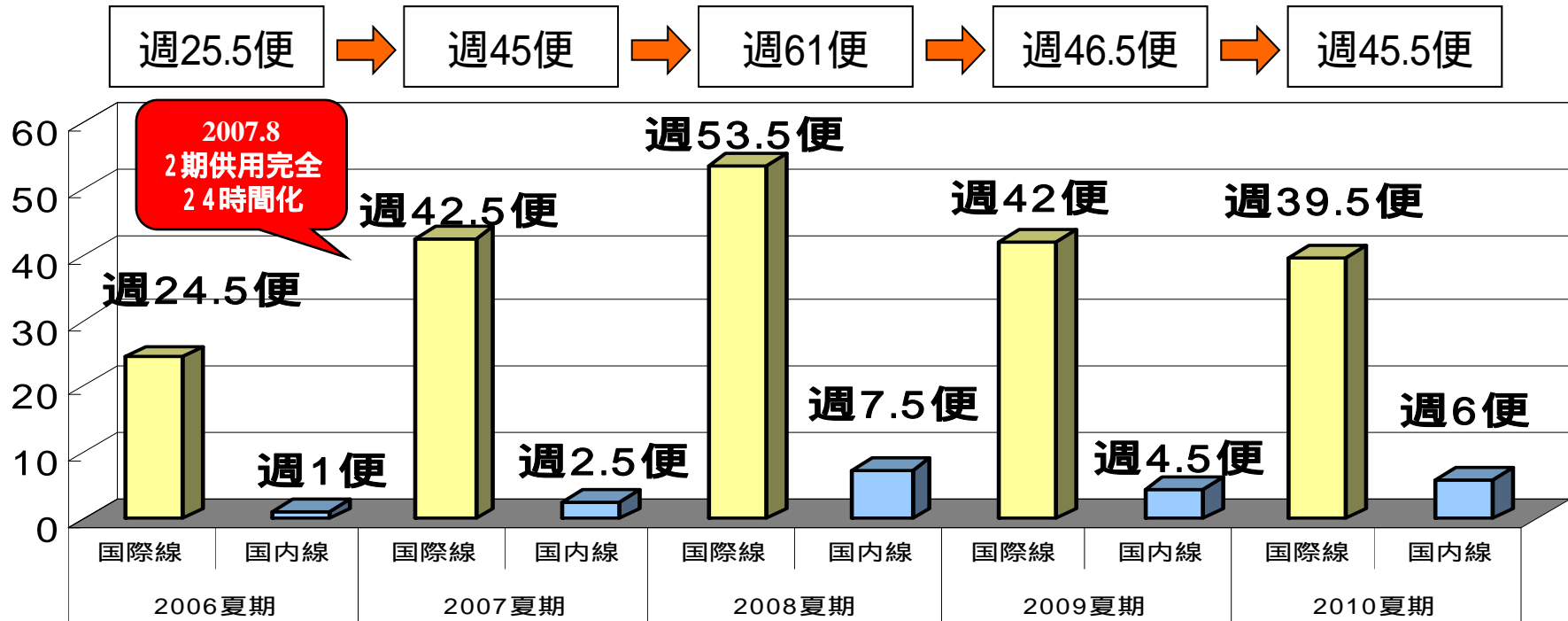
ネットワーク充実による利便性向上を図り、**「関西の貨物は関空から」**を実現！！



関空の24時間物流の促進

関空の深夜早朝便（23:00～翌6:00）の推移

2007年8月の2期開港以降、深夜早朝貨物便は概ね高い割合（約3割）を維持。



(関西国際空港(株)調べ)

荷主の多様かつ高度化するニーズへの対応と航空物流需要の喚起

民間のアイデア・創意工夫による航空物流のニュービジネスモデルの促進

関西空港を活用した国際物流の活性化を目的として、民間企業による積極的な取組を支援する制度を「関西国際空港全体構想促進協議会」との連携事業として新設。申請のあった事業のうち、8事業の認定を行った。

平成21年度関西空港物流ニュービジネスモデル中間報告

1. 関空運輸(株)「スペースチャーター便(共同配送)」

2010年2月より本格事業開始。6月時点で89日間運行し、13%相当の便数削減(効率化)効果があった。ただし、昨年夏期の実証実験中と比較し、委託物量が激減しているため、共同配送ではなく、チャーターベースでの運行がほとんどであった。

ラック使用時には166%を越える積載率の向上効果があり、今後各現場担当者等への更なる協力要請、物量の確保に努め、目標値(別添)の達成を目指す。

2. キャセイ関西ターミナルサービス(株)「医薬品貨物」専用輸入共同上屋整備・運営」

医薬品専用定温庫を整備運営するにあたり、現状分析・実態把握等のための調査業務を実施(調査期間:2009年11月~翌年3月)。定温施設の必要規模、ユーザー拡大に向けての要件等を整理把握することができた。

今年6月30日~3日間、関空会社ほか関西物流事業者等と共同で東京ビック医薬品物流 EXPO に出展。現在、関空会社により医薬品専用共同定温庫を国際貨物地区内に整備中であり(9月末供用予定)、同社が運営会社として内定している。

3. 航空集配サービス(株)「関西空港発着クールチェーン輸送のブランド化推進」

シンボルキャラクター「ドッシーくん」を開発し、2010年4月より顧客の承諾をいただいた取扱貨物へのラベル貼付を順次開始。あわせて、自社ウェブサイトや各所でのPRプロモーション等も適宜実施しており、定温輸送実績の特徴を活かした新しい取り組みとして顧客からの評判も上々である。6月末累計で60社約15万枚のラベル貼付実績あり、今後、生鮮貨物に限らず医薬品や精密機械等、定温管理貨物全般への対象拡大も検討中。

4. 三洋電機(株)「関空輸出貨物のトラック共同輸送の取り組み」

2009年9月より運用継続中。従来、物流各社ごとに陸送していた「関西流通センター」~「関西国際空港」間の輸送を、自社手配したトラックによる共同輸送に集約。本年度第1四半期実績では、トラック台数が混載便ゼロ、4t車は半減、10t車は25%削減し、CO2排出量換算で32%の削減を実現。

5. 三洋電機(株)「関西空港発着便の利用促進と関西空港の機能を有効に活用した航空輸送の取り組み」

運送事業者との2010年度年間運賃交渉時に、各社への当取組みの主旨説明を実施。また、毎月の実績を踏まえつつ、関空活用を観点にした各社ヒアリングを実施している。

加えて、深夜便等関空の優位性を活かした物流企画開発のための自社調査や、関係先等の協力を得ながら他の関西荷主企業の物流担当者へのアプローチなども徐々に開始しており、このような取り組み研究を進展させ物流ネットワーク構築を目指す予定。

6. フェデラル エクスプレス

「関空を中継地とした『コールドチェーン』輸送のサービス向上」

2010年3月に関空内の貨物取扱施設(上屋)を増床のうえ、6月に20フィート定温保管庫を2台追加設置。6月現在で関空でのライフサイエンス分野の取扱実績は、申告価格ベースで3億円弱と著しく増加してきている。関西企業をはじめ全国の医薬品業界企業等への営業も精力的に行っており、国内他空港に比べて高品質なサービスの提供が可能な関西空港自社施設への医薬品貨物の取り込み拡大を目指す。

7. ユーフレイトジャパン(株)「PROJECT-J-(Sea & Air 輸送サービス)」

事業認定後間もなく、世界不況の余波により中国発米国向けの出荷量が大きく減退、直行便運賃も大幅に下落したため、関空経由によるSea & Air貨物の優位性が低下し、当初想定が必要が見込めないと判断し、経済回復の動向をみてその後の計画を見直すことに。現在、その後の経済回復、航空業界の運賃値上げの兆しを受け、改めて事業開始実現への取り組みを計画中。

8. (株)ロジスティクスサポート&パートナーズ

「関西空港を活用した、ドアツードア輸送サービスの調査・開発」

アジア各国に事業展開する企業の貨物を関空経由とすることを検討したが、船便とリードタイムが変わらず、既存ルートととの差別化が困難であることがわかった。

また、外国人旅行者に対し、日本での購入品を自宅へ直送するサービスを行うプランも検討したが、関西空港に対するメリットが少なく、採算性の面で厳しい状況である。しかし、調査の過程において、中国東北部・瀋陽において、日本企業に対する誘致活動を行っていることがわかり現在中国側の販路の確保と、日本側の製品・商品の絞り込みを行っており、具体化に向けて動いている。今後相互のニーズマッチングを行い、具体的な商流の構築に向けて調整を行っている状況である。

平成22年度 関空物流ニュービジネスモデル募集を引き続き実施

民間のアイデア・創意工夫による航空物流のニュービジネスモデルの促進

関西空港を活用した国際物流の活性化を目的として、民間企業による積極的な取組を支援する制度を「関西国際空港全体構想促進協議会」との連携事業として平成22年度においても引き続き実施する。

各 位

国際物流戦略チーム

平成22年度 関空物流ニュービジネスモデルの募集について

国際物流戦略チーム(本部長:下妻博 関西経済連合会会長)は、関西国際空港を活用した国際物流の活性化を目的として、民間企業の取り組みを支援する「関空物流ニュービジネスモデル促進事業」を実施することとしたので、下記の通りニュービジネスモデルを募集します。

記

1. 趣旨

関西国際空港において、事業者主体による、産業界のニーズに的確に対応した独自性の高い国際物流サービスの開発とその商業化を促進することにより、関西の産業発展に寄与するとともに、関空を活用した航空物流機能の強化を支援します。

2. 認定特典

モデル事業に選定された事業については、国際物流戦略チームによる告知活動など事業普及・拡大のための各種支援を行います。また必要に応じて、関西国際空港全体構想促進協議会が実施する助成制度に対し、推薦させていただきます。

3. 募集期間

平成22年9月1日(水) ~ 30日(木) 17:00 必着

4. 応募条件

- ・ 関西国際空港を利用した関西の国際物流の促進に寄与する事業であること
- ・ これまでにない画期的な物流アイデアが盛り込まれている等、独自性の高い、先進的な取り組みであること
- ・ 実施事業について、適宜の情報提供、成果の公表ができること
- ・ 当該年度内に事業を開始し、かつ事業に一定の継続性が認められること

5. 応募要項、応募方法等

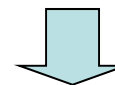
応募に関する詳細につきましては、別紙「募集要領」をご参照いただくか、下記応募事務局までお問合せください。

(応募事務局)関西国際空港株式会社 航空営業部 高橋 Tel:072 - 455 - 2038

(2010.9.1 国際物流戦略チームリ-ス)

平成22年度ニュービジネスモデルの促進(案)

- ・平成21年度募集では、ライフサイエンス輸送、共同配送、生鮮貨物のブランド化など関空ならではの独自性の高い提案があり現在も事業継続中。
- ・一方で、調査事業など今後事業化するにあたり、更なる精査、検討が必要な事業もあった。



平成22年度は、直接的に関空を利用した物流の拡大に貢献できるより具体的な事業を承認したい。

平成22年度重点項目(案)

・医薬品輸送

『医薬品専用共同定温庫』を利用した、輸送における更なる品質向上等

・農産物輸出拡大

関空を利用した、農産物・加工品輸出の拡大等

・Sea & Air、Air & Air輸送等

関空を利用したトランジット貨物の拡大等

1. 「クールチェーン」医薬品輸送の最適モデルの確立

KIX KANSAI INTERNATIONAL AIRPORT

空港内の医薬品温度管理を完全化！ KIXは更なる高みへ。

空港内医薬品輸送の課題

problem 課題

日本の全ての空港では医薬品ニーズに応えることが出来ていない。

顧客ニーズ

- 温度管理を完全に
- 医薬品専用が望ましい
- 温度記録を可視化

輸送の現状

- 温度管理が不完全な部分がある
- 医薬品専用でない
- 温度記録が一部可視化できていない

この部分の温度管理が出来ていない

空港内の温度管理を完全にするために

! solution 解決策

医薬品専用定温庫を設置、(平成22年9月末運用予定) 空港・機側の徹底した温度管理を実現。

1. 定温庫の設置

機能 / スペック

- 20℃定温設定 (650㎡程度)
- 5℃定温設定 (100㎡程度)
- 上層内でのBULLDOZ, BREAK可
- コンテナ充電設備 (20ヶ所)
- 航空機への直接搭載可能前に
- 一時保管可能 (保釈)

誰でも使用可能！
共同上層方式

ハンドリング会社

フォワーダー

エアライン

荷主

2. KIXメディカルクールチェーン協議会の活動

設立コンセプト ●
産官が一体となり、医薬品輸送にやさしい空港を構築していきます。

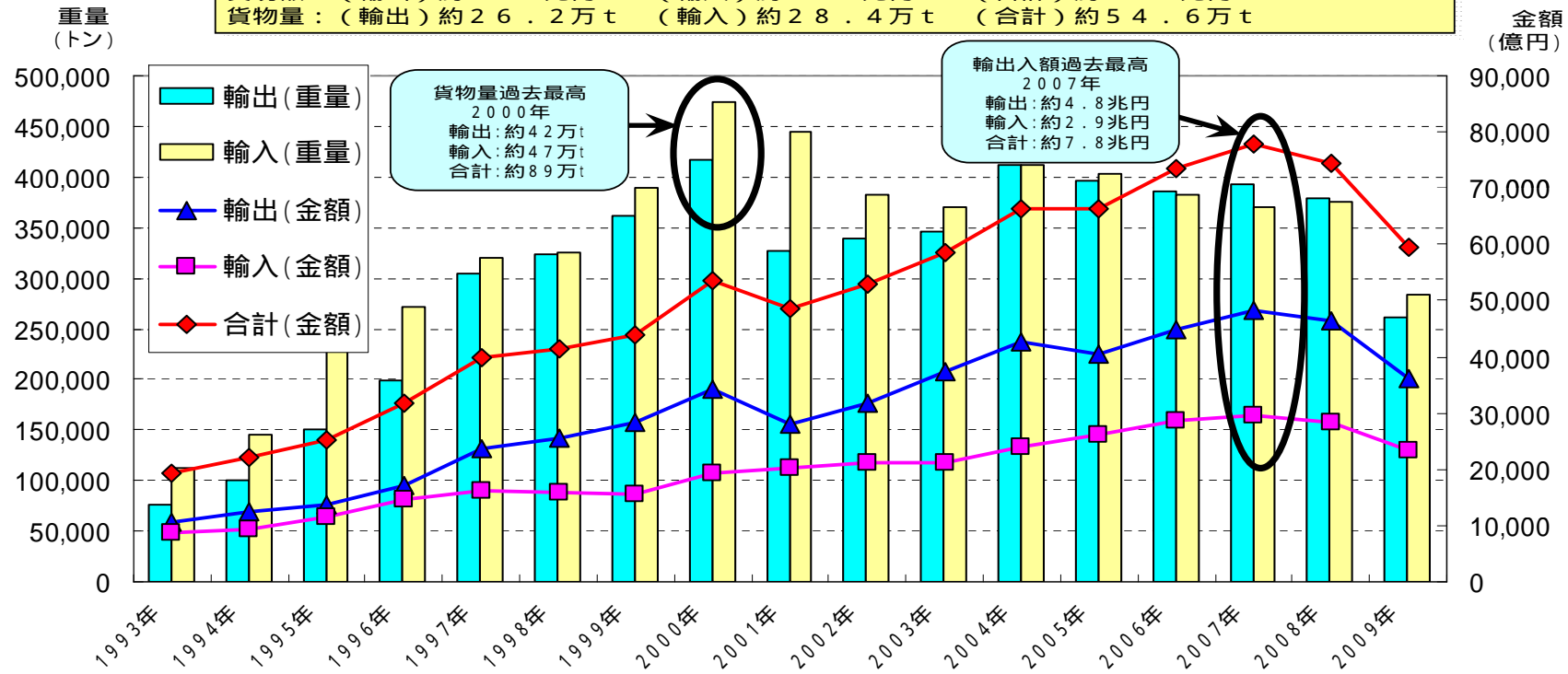
関西国際空港 (医薬品輸送地区)

検討内容 ●

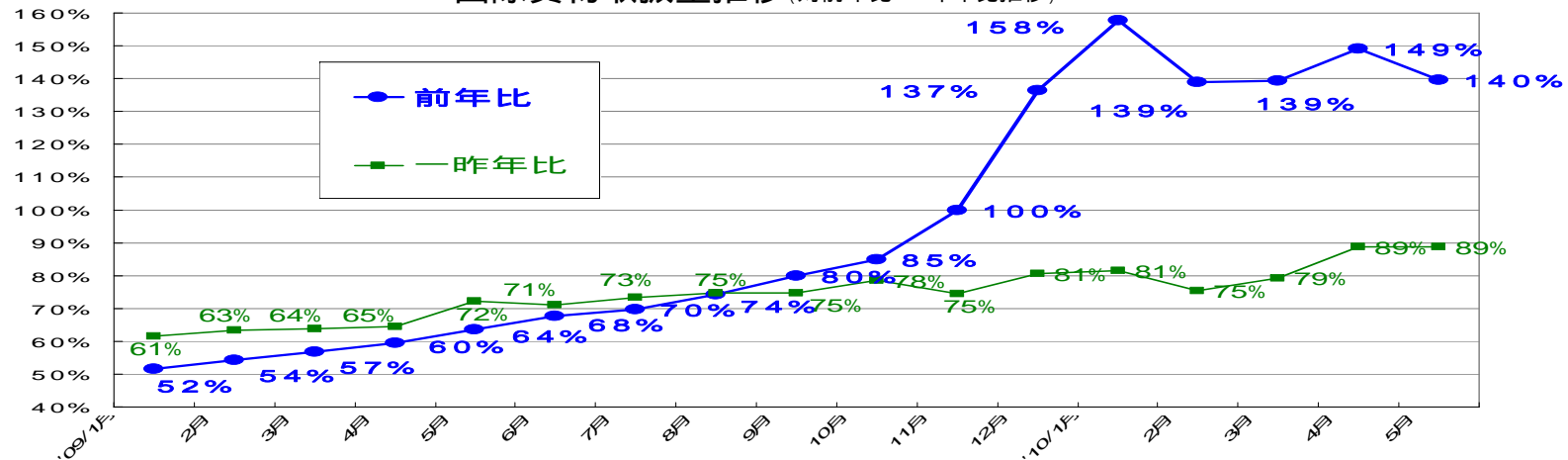
- エアライン共同商品の開発
- 医薬品専用上層整備
- 機側での温度管理
- 貨物便のエアポートプロモーション

(参考) 関空の国際貨物動向

2009年実績(確定)
 貿易額：(輸出)約3.6兆円 (輸入)約2.3兆円 (合計)約5.9兆円
 貨物量：(輸出)約26.2万t (輸入)約28.4万t (合計)約54.6万t



国際貨物取扱量推移 (対前年比・一昨年比推移)



出典: 大阪税関(貿易統計資料)

国土交通省成長戦略会議報告の概要

関西国際空港のあり方については、伊丹空港を含めた抜本的解決策を成長戦略会議において議論されてきたが、5月17日の最終報告において、関空を首都圏空港と並ぶ国際拠点空港として再生するため、伊丹空港を活用しつつ抜本的なバランスシートの改善による積極的強化を図ることがとりまとめられた。

成長戦略会議航空分野報告((平成22年5月17日)抜粋)

戦略1～3(略)

戦略4: バランスシート改善による関空の積極的強化

関空について、抜本的にバランスシートを改善し、事業運営の徹底的な効率化を実現することで、貨物ハブ化、LCCの拠点化に向けた前向きな投資の実行、競争力・収益力の強化を可能ならしめ、首都圏空港と並ぶ国際拠点空港として再生する。

具体的には、関空の事業価値に加え、伊丹(大阪国際空港)の事業価値や不動産価値も含めてフル活用することとし、持株会社の設立といった方式により両空港の経営統合を先行させつつ、両空港の事業運営権を一体で民間にアウトソースする手法を基本に、価値最大化に向けた民間の経営提案を募集・検討していく。

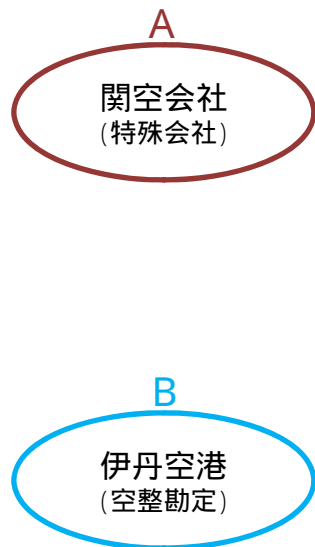
戦略5～6(略)

関空のバランスシート改善策について

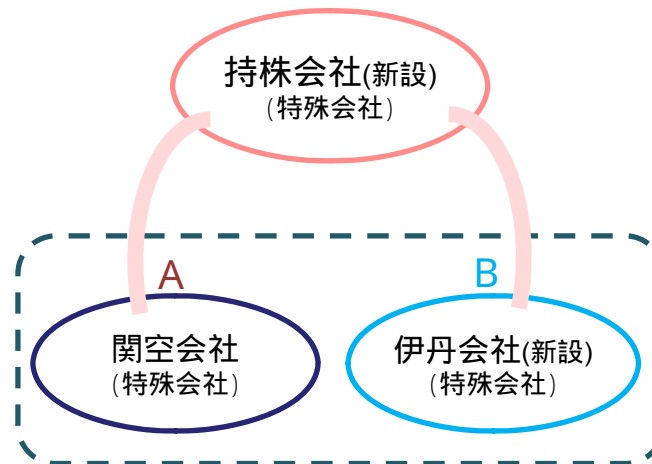
関空・伊丹の価値を民間の知恵と資金で最大化し、1.3兆円を超える債務を返済



現状



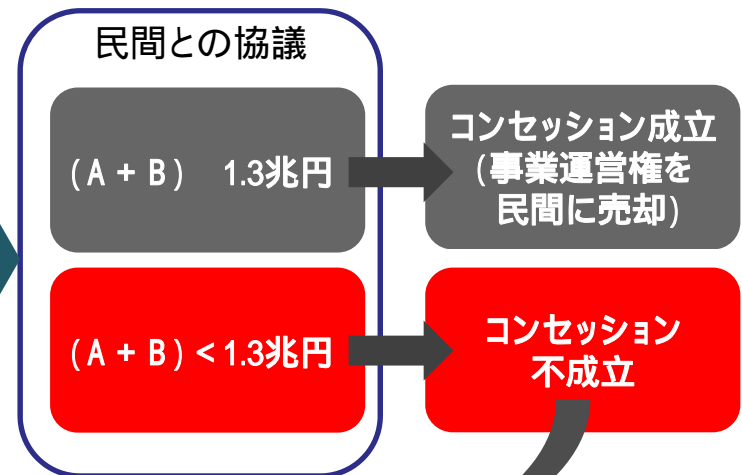
新しい経営形態の創設
持株会社方式による経営統合



- ・ 持株会社による一元管理の下で両空港の運用を最適化し、統合効果を創出。
- ・ 伊丹も空整勘定から切り出し、独立した会社として事業展開。

価値最大化の実現

(A + B)の価値を最大化する民間の経営提案を募集・選択



持株会社の下で経営改善を更に進め、改めてコンセッションの可能性を検討